

平和

院吟日本流精岳

ちよあ

第 1 4 号

平成 1 4 年 5 月
千代田岳精会弘報

吟道廿五周年岳精流大会雑感

副会長 磯田 真風

「吟友に感謝」

会員の皆様本当にご苦労様。楽しいそして忙しい一日でした。「コンクール係」「自主企画番組出演」「合吟コンクール出吟」等々気を休める暇もなく一日が終わり最後のジョン万次郎での盛大な打上げ会と本当にお疲れ様でした。「流石千代田岳精会」この大会は、八教場の会員の団

全員主役

会長 飯田 龍鷹

春真盛りの四月廿一日、輝く創流廿五周年岳精流全国吟道大会が目出度く終了しました。お互いに大変楽しかった。忙しかった。そして今や一安堵という処である。千代田は百廿七名参加という最大グループであっただけに、岳精流に千代田ありと、自主企画番組を含めて、デモンストレーションの役を十分果たしたのである。さて、この大会を時系列で振り返って見よう。年末に大会の具体的発表、新春には千代田への役割分担の指示、併せて自主企画番組の企画一実行依頼、本部での2度の大会準備委員会への各役員の出席と着々進展して行った。これを受けて千代田としては、先ずは全員

結の証の発表会でもありました。自主企画番組「赤穂義士外伝 俵屋玄蕃」の諸準備万端、嬉々として夫々の役割を果たした諸大兄姉。大会会場の盛り上がり、圧巻でした。千代田の知名度は更にUP。林 筑山の三波春夫の歌謡浪曲、加藤錬山の俵屋玄蕃の剣舞、飯田 社中の合唱、女子合吟「風さそう」。それを支えて下さった黒子役等々は千代田の多才振りを全国に鳴り響かせた催しでした。

合吟に「舟中子規を聞く」選定。次はコンクール出吟女性十人の人選と「梟脚衝を哭す」選定(指導岩崎泰風)極め付けは自主企画番組「俵屋玄蕃」(総括磯田真風)。そして最後に大会の役割一コンクール係(表彰司会吉川鍾風)の人選へと推移した。準備期間三ヵ月半、夫々にチームを組み、まさに全員主役の心で取り組んだ。就中「俵屋玄蕃」のプロジェクトは英知と体力を傾倒した闘いであった。これに伴う各教場の大会参加者のまとめ等、全員参加である。岳精流、特に千代田では何かやる時は「全員主役」の言葉が出る、全員参加・全力投球・全員主役である。本来「主役」とは、主要な

コンクール係もパソコンを駆使正確とスピードUP。成績発表も諸準備万端手際良く滞りなく終了。本当にご苦労でありました。「更に一致団結」今大会の最大の収穫は、会員全員が一つ心に纏まった事だと思えます。私達は過去を語る暇はありません。一日々々を充実させ、その延長線に未来を見つめましょう。お互いに健康に留意、吟楽人生を謳歌しませんか。折 ご健吟!

役柄・役割の人、映西や演劇の主要な人物、役を演ずる主演者指す。これに対して「脇役」がある。これは主役を助けて副次的な役割をつとめる役、一般に表面には出ない補佐役を指す。だが「駕籠に乗る人、担ぐ人、その又草鞋を作る人」という諺がある。人には差があっても、人と人との社会的な繋がりを示し、一体として物事は進んでいる事を指している。

大会準備委員会のはじめ、宗家はこう言われた「受付係、会場係、接待係等々役割分担は幾つかに分かれてはいるが、夫々の役割は体の各部位と同じで、皆大切で重要、大小、機能は異なっても、どの部位が悪くても、身体全体が麻痺して機能しない。連繫をよくして、立派な大会にして下さい」。

かくして大会の幕は揚がった。全員主役の大会は、緊張と興奮の中に進んだ。千代田の満場を圧する百廿余名の大合吟、合吟コンクールの一体感、コンクール係として、審査から表彰式までの流れるような一貫した正確、迅速、明朗性、そして、それこそ幕間にして、隠しメインともいえるべき、千代田の赤穂義士外伝「俵屋玄蕃」は。その名唱と熱演に万雷の拍手と喝采を浴び、うち続く詩吟の中に、鮮やかな彩りを添えることが出来た。全員主役の皆さん、お疲れさま。本当にご苦労様でした。

創流廿五周年岳精流日本吟院全国吟道大会

花ひらく卯月の佳き日創立の
二十五周年めでたかりけれ

宗家が岳風流より独立、「岳精流」を創流して今年は廿五周年。例年より二か月早い四月廿一日、生憎の雨の中、全国より二千名の吟のなかまが会場に集合した。

開会の言葉は、昨秋武道館の全国吟詩舞道大会で栄光の合吟コンクール制覇三河岳精会深浦会長。第一部の全員合吟は「舟中子規を聞く」(城野静軒)大会参加者最大の百廿七名が飯田会長の先導で声を揃えた。

今年の合吟コンクールは、菅原琴風リーダー中心の女性選抜チームで初挑戦、練習の成果を十分に出したが、惜しくも上位入賞には届かなかった。来年を期待しよう。式典で宗家・遠藤委員長のご挨拶は、我国の現状を憂い、若い世代への期待と論し、そして会員への感謝の言葉であった。

ここで日本吟剣詩舞振興会笹川鎮江会長よりの創立廿五周年記念岳精流日本吟院全国吟道大会への祝辞と祝歌三首が披露された。(一首は見出し)

師父教ゆ 吟道精神 貫ける

岳精宗家の 功績頌えむ

岳精流 日本吟院 光みつ 弥栄禱り 言祝ぎまつる

第四部の自主企画番組に千代田が指名され、磯田副会長をキャップとするプロジェクトが練りに練った赤穂義士外伝歌謡浪曲「俵屋玄蕃」は鈴木重風ハザマ教場長の格調高い語り口と、林 筑山氏の三波春夫張りの名調子に、加藤鍊山氏の華麗な剣舞が舞台狭しと広げられ、飯田会長の大石内蔵之助以下、赤穂浪士、侍女合わせて総勢六十名を超える登壇者に場内は大変な盛り上がり、歌の最後は場内も加わり、余興が本番より話題となる程の大成功であった。

特別寿栄合吟「西教寺を訪う」湯山申泉(清水)長谷川藍泉、鈴木忠司、佐藤四郎、宮崎昇治(ハザマ)の五氏が、長寿の源は「吟」とピンと伸びた姿勢で元気に登壇された。益々のご健吟を。

第六部特別構成番組は創流廿五周年「吟生 意気に感ず」のタイトルで各会長、支部長吟詠があり、わが飯田会長は程顕作「秋日偶成」昨年全国吟剣詩舞道大会優勝の三河岳精会女子は「焦心録後に題す」(高杉晋作)流石に見事。人賞の本部男子は「漫述」(佐久間象山)を千代田からも十四名が登壇し出場者全員で吟じた。今年も千代田はコンクール係、採点に錬水教場のパソコンが活躍、表彰状はハザマ教場の能筆お二人と多士済々何でもござれとこなし、表彰式は吉川鍾風氏の総合同会で手際よく大会を締めくくった。男子が多く、年齢を感じさせないキビキビとした動作で役割を果たす我々への本部の期待と評価は、

益々高くなったと思われる。よく頑張ったご担当の皆さん、お疲れさま、ご苦労さまでした。

全国吟道大会
合吟コンクールに参加して
神田教場 池田 皓泉

昨年暮れに、全国大会合吟コンクールに女子チームで出場すると伺い、最初はまだまだ先の事と思いき、最初はまだまだ先の事と思いき、しかし2月・3月とだんだん近づくに從って岩崎泰風、菅原琴風両先生の熱心なご指導と仲間と一緒に勉強出来る心強さに、少しずつフアイトが湧いてきました。

まだ吟を始めて六年足らず、今回初めてコンクールに對しての勉強が出来たことは、私にとつて沢山の事が得られて幸せでした。結果は残念でしたが、合吟で気持を揃えて吟ずる難しさに全員が一丸となつて一所懸命練習に励んでこれた過程は、決して無駄ではなかったと思つています。またこの練習を通じて他教場の皆さんとの交流が出来、とても意義のある事だと思つています。



最後に両先生の情熱溢れるご指導に感謝いたし、今後の勉強にも役立て研鑽を積んでいきたいと思ひます。本当にお世話になり、有難うございました。

合吟コンクールに出場して
丸の内第一教場 岩崎 桂泉

今年の全国吟道大会で「女子チームが合吟コンクールに初出場します」と井手先生よりお話がありました。初出場なので先輩から順々であろうと思つていました。で自分が出場するなどは考えていませんでした。突然の電話で指名され、初めての練習日に丸の内本社に行つてみると、皆さんやる気十分、自信ありに見えて、何の考えも心構えも無いまま出場することに後悔しました。

岩崎泰風・菅原琴風先生のご指導で吟題「晁卿衡を哭す」李白作の練習が始まりました。まず発声からです、そして合吟の基本について、出場者全員の気持ちを一つに合わせることに。詩の意味をよく理解するように素読を繰り返すこと。止めを軽く頭高のアクセント等を丁寧に教えて頂きました。練習時間もあまり無いまま、当日は、その教えや注意を頭の中に出場しましたが……、合吟の難しさを実感させられ、また自分自身の吟の未熟さも反省しました。

コンクール出場はとても良い経験となりました。この事はこれらの吟詠に生かしていきたいと思ひます。



星野久泉 <清水>

全国吟道大会に参加して
丸の内第二教場 高松 泰子

昨年八月に入会させて頂き、初めての参加となった当日は、生憎の雨、定刻の前に着いた会場は一杯で、参加者の多さに圧倒されました。合吟は先輩の後で吟じさせて頂きました。

自主企画の二つは何かホッとしたり楽しい番組でした。幼少年・青年部の吟詠は、九本の高音がのびのびとしていて、その素晴らしさに感動いたしました。その方達が特別番組の剣舞、詩舞に出場され一糸乱れぬ舞を見せて下さり素晴らしいの一言でした。

宗家、宗嗣、高段の先生方の吟を緊張して拝聴し、詩吟の奥深さを改めて教えて頂きました。これ

からは詩の心を良く理解して練習に挑戦していこうと思ひました。

全国吟道大会に参加して
ハザマ教場 萩原 晴久

私の全国大会への参加は、昨年が続いて二回目です。前回は新入りの一年生で西も東も解らぬままただ大会の運営に対する見事さに圧倒され通して終わりました。

しかし今回は、赤穂義士外伝の出版と賞状書きの手元、送り届けの役目を言い渡され内側から、昨年にも増して立派な会の運営を知ることが出来ました。

それは、大会の企画立案、役割分担、教場での稽古、合同リハール等々様々な準備がきめ細かく役員さん方を中心としてなされ、それを二千人の参加者一人一人が自分の役割を真剣に果たされていると云うことです。私もこのような会の一員としての誇りを持つと同時に、先輩の皆様のご指導を戴きながら吟の道に精進したいと思ひます。

全国吟道大会を顧みて
東陽町教場 伊丹 誠山

四月廿一日の全国吟道大会に於いて、千代田は自主企画番組に、林 筑山氏得意の歌謡浪曲「俵屋玄蕃」で参加しました。

プロジェクトで会員全員の登壇をと苦心の構成、演出によって、赤穂義士の討入りのほか発端となった主君浅野内匠頭の殿中松の廊下における刃傷から切腹に到るまでの事件の筋を討入りの前に構成したことが、大成功を収めたと思われまます。

鈴木重風先生の松の廊下から始まる流暢なナレーションにのせて、婦人部が和服姿に紅襪で勢揃い、内匠頭辞世「風さそう…」を美吟。傍らで加藤鍊山さんの白装束での切腹の演技など見事でした。

飯田会長の大石内蔵助以下の義士総勢で、私も「槍は錆びても…」と合吟、林 筑山氏が三波春夫よろしく着流し姿で二番と浪曲を、二役の加藤鍊山氏が手槍で玄蕃よろしく助太刀に駆けつける、三番となると舞台から「会場の皆さんと一緒に」と声をかけ、前もって配つておいた歌詞によって会場からも大合唱となり、最後を大いに盛り上げたものでした。

次に合吟コンクールに出吟した婦人部の皆さん、頑張つて良い線いってたと、審査結果を楽しみに待ちましたが残念乍ら八本の吟に敗れたようでした。

成績発表、表彰式は昨年に続いて吉川鍾風先生のときばきとした司会進行に、客席でも感動の音が感じとれ、千代田が会場を盛り上げ立派に納めたようでした。

清水・神田・ハザマ教場合同開設五周年記念温習会

湯島聖堂の杜に飴す吟声



千代田教場が支部に、そして千代田岳精会へと急速に発展した平成八年より九年、清水、神田、ハザマ三教場が続けて開設された。

お互いに切磋琢磨しながら着実に拡大を遂げ、合わせて六六名の吟友が、二月二八日《清神間なかくよく真善美》をスローガンに、合同の開設五周年温習会を「湯島聖堂」内の斯文会講堂で開催した。

半年以上前より準備の打合せが重ねられ、詩吟を学ぶ我々にとつて漢学の聖地と言つても過言では無い三百年余の歴史を持つ「湯島聖堂」を会場に出来たことは、至福の極みと言える。

鈴木重風ハザマ教場長の開会挨拶で始まった全員吟詠は五つのテーマに分けられ、独吟、連吟、合吟に日頃の精進と、人生の年輪が一吟一吟に表われていた。特に尺八伴奏は初めての人も多く、三六名の方々が笙詠会長栗城笙童先生の伴奏という幸運に恵まれた。

ご来賓の横山精真宗嗣、渡 精華副幹事長、岡村龍栄先生、青山恵風先生、飯田会長、磯田副会長の格調高い、そしてお祝いに駆けつけた吟友達の味わい深い吟に会場全体が酔いしれた。

林 吾風神田教場長が「同根より出た三教場で、この場所で開催出来た」ことへの謝辞を述べられ、全員合吟「富士山」で締め括り。懇親会は神田明神会館、これ又千三百年の由緒ある神社。世話人方の心配りの料理に参加者全員大満足、村上恒山清水教場長の挨拶で意義ある一日は終わった。

この日は丁卯大安、湯島聖堂、三教場の協力とまさに「天の時、地の利、人の和」が具現され、三教場の弥栄は間違いない。

三教場「松竹梅」の五周年
神田教場長 林 吾風

詩吟は心身の健康によいからと中学時代の友人村上恒山氏を勧誘、やがて大槻鉾泉氏と協力、清水教場を設立された。次いで小学校時代の旧友二神和山氏を誘い、更に氏の学友佐藤甲泉氏から城戸稲泉氏へと拡がり、ハザマ教場の発足に至った。

私は師範の許証を頂いたのでを機に、神田川畔に教場を発足させた。「井戸の水を飲む時、その井戸を掘った人の恩を忘れず」と数名の友が協力してくれた。いつも感謝の念で一杯である。
さて私の戎育地武蔵野の井の頭。

三代将軍家光が鷹狩りの途次湧水を発見、その美味に井戸の王様だと「井の頭」と命名、神田上水として江戸町民に利用されるに至ったとされるが、この清水が今日なお神田川として街の間（ハザマ）に潤いをもたらしており、三教場の生い立ちに似るものがある。

その後「清水」は「和して動ぜず」大地にしっかりと根を張るたくましき松林教場（真）、「ハザマ」は「喧々囂々」されど仲良き名節調の竹林教場（善）、「神田」は友人主体で励ましあい、花実を賞でる梅林教場（美）で夫々のカラーを持ち、年々善友を増やしている。

この友が更なる向上を期すべく五周年を共に祝い、そのパーティ席上「松竹梅」の愚作を披露した経緯は以上の通りです。
平成十四年二月廿八日
清水・神田・ハザマ教場
五周年を祝して
松竹梅 林 吾風作

一、緑も深き武蔵野の
清き水湧く井の頭
街のハザマをうるおいつ
流るる吟声神田川

二、松の如きたくまじき
竹の如きしなやかき
梅の如き清らかき
清神間の吟の味
（瀧廉太郎作曲「花」調）

三教場の記念温習会が終わって
神田教場副教場長 福島 起山

五年間の研鑽の成果をお披露目する三教場の記念温習会は、去る平成十四年二月廿八日、湯島聖堂内の斯文会講堂で行われ、続いて神田明神内の明神会館で懇親会が開かれたが、今回の催しは本当に楽しいものであった。

感激が遠のく前にハブニングを含め二、三の感想を述べたい。
第一点は、湯島聖堂・昌平齋は近代教育の発祥の地という。この場所での吟詠ができたことは有意義であった。吟をやっていたいなければ、聖堂内に足を一歩踏み入れるチャンスは少なかったのではないか。

第二点は、記念温習会の開催、企画、準備について三教場が一体となり、所属会員が役割りを分担した。準備はマラソンレースにも似た感じだったが、計画通りにやられて、喜びを分かちあえた。また、これを機会に交流の輪が大きく広がった。「三教場の十周年記念も此処でやろう」との声も出た。

第三点は懇親会が終了、フロントで荷物を受け取る時、私が明神会館で式を挙げた（神田生まれの氏子）と触れたら、遠い昔の「結婚式」の申込用紙をファイルの中から引き出して、見せてくれた。これには驚いたが、記念に「絵馬」を頂いた。これも吟をやった

縁と痛感した。

今回は、宗嗣、渡 精華先生始め、ご来賓の諸先生や千代田岳精会の他教場の皆さんのご参加で、記念温習会を盛り上げていただいたことにつき、改めてお礼を申し上げます。

清水・神田・ハザマ三教場開設
五周年記念温習会に参加して

ハザマ教場 宮澤 修泉

廿一世紀初頭二月廿八日、温習会が仲良く合同で開催されたことは大変喜ばしい限りであった。下準備のお世話をして下さった関係者のご努力に深甚の敬意を表する次第です。

また、本部より横山精真宗嗣、渡副幹事長、千代田岳精会より飯田会長、各教場長他多数の方々のご参加を頂き、厳肅な湯島聖堂の一角「斯文会」で盛大に執り行なわれたことは、良き指導者の皆様のお陰と厚く感謝申し上げます。内容はまず、構成が良かったと思う。会詩合吟に始まり、A五周年を祝う（祝吟、友情を詠う）B古きを温めて（処世訓、処世観、古きを懐う）C四季に寄せて（春夏・秋・冬を詠う）D人生の哀歎を（日本人の心の歌、故郷を思う、夫婦、姉妹の絆、酒と人生）Eこの国を愛す、そして千代田岳精会吟友、ご来賓吟詠と極めて順調に

発表会を終了。

続いて懇親会を神田明神会館に移し、各先生方を夫々のテーブルに囲み、打って変わって和やかな歓談が弾み宴酣を迎え、渡先生の歌声で「よろめきダンス」が始まるやら、はたまた芸人肌の歌謡浪曲も飛び出すなど……。最後は神田教場女性陣によるコーラス、「松竹梅」（林 吾風作、曲は瀧廉太郎作「花」調）が歌われ、更に全員が肩を組み輪になって声高らかに遠藤精岳本部幹事長作「同期の桜」替え歌を唱って、来る十周年に向かつて更なる向上発展を誓い、別れを惜しみつつ散会した。本当に大成功であったと思う。



開設五周年

記念温習会に参加して

神田教場 内山 雅彦

岳精会に入会して半年、毎週楽しいみな吟詠教室、それは私にとつて気持ちのよりどころである。私が通う教場の師範は、若々しいお声、力強い吟、非常に見識の高い講義をされる林 吾風先生。私は三〇代に五年間ほど岳風流

の若き師範（四三才）に習った思い出があり、どうしても昔の吟が蘇ってしまふ。林先生にご教授を受け、一年生として日々岳精流に受けこもうとしている。この度は、温習会の三か月も前に吟題を選び、毎週先生のご指導を頂いた。

先生は昔の吟は現在とは大きく違ふ、時代に合った吟じ方を練習するようにと指導された。幸に時間的余裕があり、しかも先生の大変細やかなご指導をいただき、お陰様で当日までには何とか自信が持てた。

その林先生が実行委員長である。私も設営係を仰せつかり少しではあるが、温習会を盛り立てる事ができた。一か月ほど前、会場のこじんまりした風格ある湯島聖堂「斯文会講堂」で設営の打合せがあった。その時、他教場の方々にお会いして、皆さんが吟の大先輩に感じられた。

温習会当日、九時半に会場に入り、大竹、酒井両先輩の指示のもとテーブル等の配置を素早く済ませ、練習をする余裕があった。

出番は中頃、あせること無く自分の番を待ったが、壇上に上がってみると、全身が震え落ち着いた状態ではなかった。しかし幸いにも吟は乱れることなく、二分間の充実した吟詠ができ、その後は、来賓の先生方の吟詠をゆったりとした気持ちで拝聴して一段と吟に

対する魅力が深まった。温習会は諸先輩のご努力により、盛会裏に終わり、先生方もほっとされたことと思う。

「清神間」仲良く「真善美」
清水教場 木内 真邦

早いもので、清水教場は開設五年を経過。神田教場、ハザマ教場も相次いで五周年を迎えたのを機会に、三教場相計らい合同の記念温習会を開催し、この五年間の研鑽の成果を発表するとともに友情の絆を更に深めようと話がまとまり、昨年九月に三教場合同温習会の企画が始まった。

林神田教場長ご手配による湯島聖堂は、徳川五代将軍綱吉によって創建された孔子廟で、江戸時代学問教育の総本山であったと聞く。会場の斯文会は今も孔子を中心とする東洋思想・学問・文芸の研究と、普及・振興の活動を行なっており、この由緒ある会場に恵まれたことは非常なる喜びであった。当日は夜来の雨も上り、ご来賓に横山精真宗嗣、渡 精華副幹事長をお迎えし、鈴木ハザマ教場長の開会宣言で始まった。祝吟「松竹梅」に続く吟のプログラムは、三教場の希望によって、友情・古きを温めて・四季・人生の哀歎・この国を愛すにそれぞれ分類され全員一吟づつ吟じた後、ご多忙の

全国吟詠コンクール（港区）
に入賞して

ハザマ教場 功刀 蒼泉

これまで二回川崎地区予選に出
場し、一回目はマイクの使用ま
さで、二回目は好調にスタートし
ながら途中絶句して落選、今回は
三度目の挑戦でした。飯田会長、
鈴木教場長の厳しい中にも情のこ
もった特訓のお陰でやっと念願の
入賞が出来、誠に嬉しく、両先生
に心から感謝申上げる次第です。

東京都吟剣詩舞道総連盟の審査
員十名により、吟声、発声の正確
さ、音程の一定性、発音の正確性、
詩心のとらえ方、吟詠態度と各面
からの審査でした。私は詩心のと
らえ方、長音の出し方に特に注意
し、口を大きく開けての母音の出
し方についても意識的に挑戦して
みました。出場順は大とり、一発
強力にアピールすれば何とかなる
かと思いい全力を出し切ったつも
りでした。

入賞者の発表の際、最後に「こ
の姓は何と読むのか難しかった人
でした」と前置きしての「くぬ
ぎ」。これで一応は詩吟の道で何
とか人前で吟じられる様になっ
かと思うと胸にぐっと来るものが
ありました。私は詩を吟ずる事は
大好きですが、やる以上は或る程
度のレベルまで達したいと思っ
ておりました。飯田会長、鈴木教場

長、本当にご教導有難うございま
した。今後は人に聞いて頂ける詩
吟を心掛けてゆきたいと思っ
てお
ります。
皆様よろしくお願い致します。

【私の心に残る一詩】その七

神田教場長 林 吾風

事に感ず 于 濱

花開けば蝶枝に満つ
花謝すれば蝶運稀なり

惟旧葉の燕有り
主人貧しきも亦歸る



この詩の色紙を、知人から貰
い、偶々所用の為明治生命本社
を訪ねたところで、旧知の飯田
龍鷹、吉川鍾風両氏と鉢合わせ
「これから詩吟の勉強をするこ
ろだから、さあ一緒に参りま
しょう」と無理矢理7階の講堂
に連れてゆかれた。

そこでの飯田先生の範吟、平
井紅風、今橋麗泉（故人）さん
の天女の如き美しい合吟に魂を
奪われる思いがし、直ちに入門。
更にこの詩の解説をして頂き
感銘した。

よき吟縁記念となった思い出
の一詩です。

【教場だより】

清澄庭園で忘年懇親会



星野久泉 < 清水 >

優雅な江戸情緒を残す清澄庭園
「涼亭」で十二月廿日清水教場の
懇親会が行なわれました。

出席者は教場吟友十三名に飯田、
磯田両先生においでいただき、午
前中はご指導による習吟で、皆真
剣に取組みました。

午後は食事をとりながらの懇親
会。山手・徳本両氏の司会でコン
ダクターは何時ものように村上・
大槻両氏が担当。会は詩吟にこだ
わらず飲んで喰べて楽しく！とい
う雰囲気になりました。井手・小
林の旧制四高旧友同志の寮歌を皮
切りに、次々と民謡、端唄などが
飛出し、会は一気に盛り上がり終わり
そうにもありませんでしたが、渡
邊氏の閉会の辞、大槻氏の手締め
で予定どおり三時に終了しました。
清澄庭園の夕暮れの澄んだ暗さ
も情緒たっぷり、町並みにも出る
と江戸情緒がただよい、近くの深

川江戸資料館に立寄ったりしなが
らゆっくりと帰途につきました。

（清水教場 小林 柔泉）

桜より詩吟の花見吟行会

恒例の丸の内第二・東陽町合同
花見吟行会は、約三十名が地下鉄
九段下駅に集合。千鳥が淵へと向
かったが、暖冬の影響で桜は殆ど
散り、唯一本戦没者墓苑の近くに
八重桜が色濃く残っており、その
下で揃って写真を一枚。

墓苑参拝後、昭和天皇御製の歌
を碑の前で全員で献吟、更に「九
段の桜」を献吟した。近くに居た
老紳士から「皆さんは陸軍ですか、
海軍ですか」の声がかかった。全
員その年代に見えたかと妙に感心。
昇伝審査が行なわれる宮崎県東
京ビルが今日の会場、何時も岩崎
教場長の肝煎りだ。世話役は晴山
翠山の太田コンビ、直行組も加え
総勢四十名、郷土料理に加え、婦
人部の方々心尽くしの手作り料理、
「花より団子」と盛り上がり、早
速ゲスト参加の方々を皮切りに全
員が持歌や、当日配布の「春を詠
う絶句」を楽しく吟じた。

桜は散っていたが、美味しい料
理に旨い酒、楽しい吟の仲間と心
行くまで吟じ合えるひとときは、
心身に活力を与えてくれた。

まさに「春宵一刻直千金」
（丸ノ内第二教場 八田 豊）

コンダクター技術向上研修会

昨年初めて実施、好評で継続の要望が多かった技術向上研修会を、明治生命本社で次の通り行ないます。誘い合わせご参加下さい。

六月廿八日(金) 十七時
九月廿七日(金) 〃
十一月廿九日(金) 〃

「新会員紹介」

◇ハザマ教場

田中 宗太郎氏(二月入会)

何といつても《温厚な人柄》

「田中さんが怒った顔を見たことが無い」というのが仲間の評判。退職後も、各種シニアスクールに参加し、一所懸命に励まれる勉強家であり、努力家です。

◇神田教場

加藤 千恵子さん(三月入会)

橋本厚子さんの紹介、同年輩の友達で、三月より出席。

お孫さんが二人いるが、まだ現役のお勤め人。趣味は絵画鑑賞、海外ものを中心とした映画鑑賞だそうです。

山崎 洋子さん(五月入会)

林教場長とは東京三菱銀行時代からの知り合い。健康法としてゴルフ、体操などに関心を持っており、年二回行なわれる銀行OB会のゴルフにも参加。詩吟は初めてだが、先輩がよく声が出るので驚いているとか。

◇丸ノ内第二教場(草加分教場)

安斎 美代子さん(二月入会)

渡辺幸子さんの紹介、カラオケは音量、音感パッチリの最高点、スリムな身体から良く声が出る点と感心。愛するご主人様はアイデアマンでテレビ、新聞にも出た社長さんで、幸せなご家庭です。

岡部 玲子さん(二月入会)

まじめで、几帳面な、安心して何事も任せられる方です。奇麗な声と節調の確かさは同期入会の中でも、一目おかれる素質の持ち主、素敵なお方です。渡辺幸子さんの紹介。

名取 六子さん(二月入会)

吟に合った美しい声、読みも良く、何時も先生に誉められ、皆さんの目標です。特技の車の運転で色々と重宝しています。上品でやさしく、いやし系のお人柄です。渡辺幸子さん紹介。

二見 久美子さん(二月入会)

日舞は花柳流の名取、茶道、華道全て先生です。吟も堂々と大きな声で、期待の大型新人です。「湖上に飲す」の西施のように、全て相よろし。渡辺幸子さんの紹介。

夏目 あや子さん(三月入会)

コンダクターの音が心に沁み岩崎先生のフアンとなったのが入会の動機。周囲をいつも楽しくさせるムードメーカーです。

AB型、夏目姓の有名人とは特別に関係はないそうです。太田翠山さん紹介。

◇東陽町教場

星 隆氏(四月入会)

東陽町期待の大型新人。入会初日難しい藤村作の新作詩「春」を堂々と独吟、皆から追越し禁止のブーイング。豪快な笑い声、そして酒豪はさすが幼年学校出身。奥さんに先立たれながら、目下外国への船旅にハマリ、気楽な生活を楽しむ独身貴族。

明治生命OB。七二歳

◇丸ノ内女子教場

州戸 和子さん(五月入会)

ご主人が明治生命の退職者、菅原教場長の近所に転居を契機に勧められ入会。全国吟道大会をととても楽しく聞かれたと、しっかり詩吟にはまった様です。期待の有望な新人。他に趣味はフラワーアレンジメントとか。

◇丸ノ内第一教場

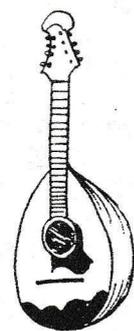
橋本 静江さん(五月入会)

神田神保町生まれチャキチャキの江戸っ子、稲垣藤山さんの小学校同窓で旅行のパートナー、何事もテキパキと行動処理する方、秘めた力を充分発揮するのではと楽しみです。

守谷屋サチ子さん(五月入会)

詩吟を聞くのも初めて、カラオケも二回しか行ったことがない方を見学にお誘いした処、皆

勤で熱心に勉強されています。いつ迄も一緒に吟じたいと、高橋耀泉さんがお誘いしました。



◆三原 菊泉さん(丸ノ内第二)

平成十四年一月十五日逝去されました。享年六十五歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。

◆赤澤 弘三氏(神田・休会中)

平成十四年二月十八日逝去されました。享年七十五歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。

ご遺族のご希望により、西多摩霊園の吟楽碑に合祀されます。

編集後記

由緒ある「湯島聖堂」で三教場開設五周年温習会が開かれ、大盛会でした。全国吟道大会、自主企画番組「俵屋玄蕃」林 筑山・加藤 鍊山氏の熱演に拍手の嵐、全国吟詠コンクール地区予選、実力発揮で大勢の入賞。新しい会員さんも沢山紹介でき、筆も踊る春。

一方お二方の計報記事を書く。盛者必衰の理とは申せ、唯々合掌。今年の桜は例年に無く咲き急ぎ、散り去りました。(八田)